

2017年  
6月26日  
月曜日

林 宜嗣 教授（財政学）

# 「SMART」ターゲットの 大切さ

日本は今、さまざまな政策課題を抱えています。国や地方自治体はその課題の解決に取り組んでいるのですが、十分な成果があがっているとは言えません。その原因は、あるべき姿が描けないことにあるのではなく、むしろ、そこに到達するプロセスが悪いことにあります。

自分の家を建てることになったと想像してください。家を建てるとき、まずは「どんな家にしたのか」というイメージが必要です。イメージができあがったら、実際に、家の建築を工務店に依頼しますが、イメージに合った家を建てるためには設計図が必要で、ほとんどの場合、プロの建築士が外観、強度、コストなどを考慮して設計図を書きます。外観に気を配りすぎると強度がおろそかになり、逆に強度にばかり気を遣うと見栄えが悪くなる可能性があります。設計図ではこのバランスが大切です。

望ましい社会を築くときも同じように設計図が必要なのですが、日本の場合、どちらかというと道路や福祉施設といった部品が先に決まっているのが実情です。設計図を描くためには、どのような社会を作り出そうとしているのかというビジョンが不可欠です。しかしビジョンはイメージであり抽象的です。課題を解決するための戦略を立てる際には、より具体的な政策目標が必要なのです。

ところが、日本の政策は、「安全・安心なまちをつくる」とか、「経済を活性化させる」といったように、目標が抽象的で、どのような戦略を立てれば効果的に課題を解決できるかを判断することができません。そのため、効果のありそうな政策を手当たり次第に試してみようということになりがちです。公共政策であればビジネスであれ、目標が大切であることは誰もが知っていますが、実際に

目標を設定するのはなかなかやっかいです。そこで、ヒントになるのが「SMARTターゲット」です。その内容は以下のようなものです。

- ① 具体性 (Specific)：活動方針や目標が具体的であること。達成したいと考えていることを具体的に述べることによって目標はより明確になり、目標達成のためにしなければならぬことが分かりやすくなります。
- ② 測定可能性 (Measurable)：設定したゴールがどれくらい実現したかを検証し評価できるようにすること。目標が具体的であっても、測定できなければ目標達成に向けてどの程度進んでいるかを知ることができません。
- ③ 実現可能性 (Achievable)：達成できる範囲内で最大のゴールを設定すること。目標が手の届かないものであったり、逆に、標準以下の低いものであったりしてはなりません。
- ④ 適切性 (Relevant)：適切な目

標を選ぶこと。目標がたとえ具体的かつ測定可能で、実現可能なものであっても、他の政策目標と整合的でなかったり、優先順位が低く実現する意味がなかったりする目標は適切とは言えません。

- ⑤ 期限の明示 (Time-bound)：目標達成の期限を設定すること。期限を設定することによって、頑張る気持ちや責任をもたせることができ、他の仕事も割り込んでくることで目標達成が後回しにされるのを防止できます。

SMARTターゲットは皆さんの生き方にとっても参考になります。皆さんはこれから経済学部を卒業するまでに大きく成長する可能性を持っています。しかし、そのポテンシャルを顕在化するためにも、学生生活の具体的な目標を設定し、それに沿って努力をしてください。